

## 生体情報モニタ仕様書

### 1.品名・数量

1)セントラルモニタ	1台
2)ベッドサイドモニタ	2台
3)送信機	3台
4)中継アンテナ工事	一式(必要な場合)

### 2.納入場所

892-0834 鹿児島市南林寺町1番11号

社会福祉法人<sup>恩賜</sup>財団<sup>財団</sup>済生会鹿児島病院

1)セントラルモニタ	療養病棟(3F)
2)ベッドサイドモニタ	一般病棟(5F)・療養病棟(3F)
3)送信機	一般病棟(5F)・療養病棟(3F)
4)中継アンテナ工事	一般病棟(5F)・一般病棟(4F)・療養病棟(3F)

### 3.納入期限

令和4年8月1日(木)~9月30日(金)まで

### 4.基本仕様

- (1) セントラルモニターは以下の要件を満たすこと。
  - ディスプレイ部画面は17インチ以上のワイドタイプカラーLCDであること
  - 1画面に4床分以上の生体情報の監視が内蔵受信機により同時表示が可能であること。
  - 解像度は1920×1080画素以上で、タッチパネルを採用のこと。
  - モニタリングしている人数に応じて、画面を最適化する機能を有すること。
  - 操作メニューは日本語で、予測機能があること。
  - ベッドサイドモニタ同様の表示画面をセントラルモニター上で表示可能であること。
  - アラームは緊急度に応じて3段階以上のレベルで認識可能であること。
  - アラーム要因が消失した場合でも、過去に発生したアラームを一覧で表示できること。
  - アラーム発生時は、画面表示や音だけでなくLEDにより、どの角度からも確認できること。
  - 入退床の処理が電子カルテと連動できること。
  - 表示項目は心電図(ECG)、呼吸(RESP)、観血血圧(BP)、動脈血酸素飽和度(SPO2)、炭酸ガス濃度(CO2)、酸素濃度(O2)波形表示が可能であること。
  - 測定項目の数値表示は、心拍数、ST、呼吸、体温、動脈血酸素飽和度、脈拍数、観血血圧、非観血血圧、炭酸ガス濃度、酸素濃度が可能であること。
  - 不整脈解析機能を有すること。
  - 3チャンネルの波形を記録可能な記録器を内蔵しており、レーザープリンター、サーマル紙等で記録可能なこと。
- (2) 送信機3台は以下の要件を有すること。
  - 心電図・呼吸・SpO2の波形の測定が可能であること。
  - 単三アルカリ電池2本で駆動可能であること。
  - 防水規格に適合していること。

- (3) ベッドサイドモニター2台は以下の要件を有すること。
- ディスプレイ部画面は7インチ以上のワイドタイプカラーLCDであること
  - 1画面に2床分の生体情報の監視が内蔵受信機により同時表示が可能であること。
  - 解像度は800×480画素以上で、タッチパネルを採用のこと。
  - 操作メニューは日本語で、予測機能があること。
  - モニタリングしている人数に応じて、画面を最適化する機能を有すること。
  - 無線双方向通信機能を有していること。
  - アラーム設定及び患者属性設定がセントラルモニターと連動していること。
  - 電子カルテと連動できること。
  - 表示項目は心電図、呼吸、非観血血圧、動脈血酸素飽和度、体温
  - 内蔵電池により、最大3時間以上の電源供給が可能なこと。

## 5.機器納入・設置

- (1) 納入する機器は、全て未使用のものであること。
- (2) 納入するまでの間に装置の仕様変更やバージョンアップが生じた場合は、最新の仕様で引き渡すこと。
- (3) 納入する機器と入替に撤去予定である当院既設の医療機器がある場合は、撤去費及び撤去後に伴う費用を含むものとする。
- (4) 納入にあたっては、納入場所の所属長または、担当者の設置の指示等を受け、設置し、検収を受けること。
- (5) 納入にあたり、据付工事、設定およびシステム接続費用等が必要な場合は、納入者の負担とし動作確認を持って完了とする。
- (6) 本装置が正常稼働するために必要な調整について、納入者の負担により責任をもって実施すること

## 6.機器の保守

- (1) 納入日から1年間は機器の無償保証期間とし、機器が正常に稼働し、臨床上最適に使用できるように定期的な点検を実施すること。また、保証期間中に発生した故障等に係る点検、修理等の費用については保証の対象とすること。また、これ以上の保証期間を設ける場合はこの限りではない。
- (2) 機器の故障時に迅速(概ね24時間以内)にサービスマンが来所できること。
- (3) 本装置の納入後、10年間は稼働に必要な消耗品及び故障時における交換部品の安定した供給が確保されていること。

## 7.検収事項

本装置を使用する、看護師及び看護補助者が操作方法を熟知し、確実に使用できるまで研修・技術支援を納入者の負担で責任をもって実施すること。